鎧橋 随想

（順不同）

将来のたからもの

ハーベストフューチャーズ　社長　佐藤　陽紀

日本の将来を担う子どもたちが、疲弊している。キレている。いじめが横行し、自殺という悲惨な結末。非行化は、かつてない陰湿な事件を生んでいる。犯罪の低年齢化は目を覆うばかりである。

無関心ではいられないと常々心を痛めていた。

その名も「がんばれ！日本の子どもたち国民大会」。50年の歴史を経て、財団法人青少年問題研究会が立ち上がった。大人たちがもはや放っておけない問題として、子どもたちと真正面から向かい合おうとのスローガン。私は、この一大イベントに、一も二もなく賛同した。

3月19日、東京・九段会館。目を瞑ってはいられないという大人たちの真摯な気持ちが、会場全体に漂い、熱気すら感じられた。

パネリストの大平光代さんはいまや大阪市の助役だが、中学生時代にいじめに遭い、割腹自殺。一命を取り留めるも、親や大人たちに反抗し非行に走る。そんなどん底体験を経て司法試験に一発合格。赤裸々な告白に会場から嗚咽がもれる。彼女は言った。

「子どもたちの心の飢え、渇きを酌んでほしい」

わが社のささやかな社会貢献も一歩踏み出した。

すべてに感謝の心で

第一商品　専務　岩崎　英一

先だって、夢に出て来ました。我々、商品先物業界、また所属企業が愛されるにはどうしたら良いのかと……。

今、国内におけるあらゆる社会現象は、将来に亘って空恐ろしくなる状況になっております。その下で、企業も不況の影響と自己利益追求のために、社会問題化するような事例が後を絶ちません。

わが業界におきましても例外ではなく、トラブル事例が頻発しており、国民生活センターや消費者センターに持ち込まれる案件は増加傾向にあります。そのような情勢の中で、我々は何を為すべきか。

「すべてに感謝の心で」――これが目指すべき理念ではないかと私は思います。あるお客様から、「営業マン、会社が誠意を持って接することで、そのお客様自身が営業マンになってくれる」との言葉を戴き、それを完全遂行できている社員の業績はウナギ登りに上昇している事実。

誠意と感謝の心でお客様に接すれば、誰からも必要とされる、愛される営業マン、企業になれるのではないか。

桃栗三年柿八年夢十年と申します。五月からの改正商取法施行もあり、今こそ、この基本原則「お客様にとって、なくてはならぬ企業に、業界に」に則って、素晴らしい業界に、取引員に、皆してなろうじゃありませんか。

桜

石橋生絲　社長　石橋　昭彦

今年の桜は本当にきれいでした。ここ数年間で、一番きれいだったと思います。

今年は暖冬という長期予報が全くはずれて、寒く積雪量も多く、春が来るのが遅かったのです。

桜がいつ咲くのか、本当に待ち遠しく、テレビでもそのことをニュースとして扱っていました。そして東京では4月に入りどっと一斉に桜が美しく咲きました。

花見には行きませんでしたが、出勤途中や出張の途中で、美しい桜を楽しみました。桜を見ると、なんとなく心がうきうきするから不思議です。

でも桜は一週間で散ってしまいました。短いからこそ一層桜は美しく見えるのでしょう。

ところで花見という行楽は、日本で古くから行われていたのでしょうか。先日、テレビを見ていたら雑学博士が言っていました。大昔は優雅な梅を公家達が見て楽しんでいました。それが武士の時代となって、ぱっと咲いて、ぱっと散る桜は潔いということで、桜が重視されて、花見は桜となったということです。あまり知られていないことだと思いましたので、ご参考までに書きました。

酒は旨い

エース交易　取締役相談役　白井　憲治

先日ある処で日本酒をご馳走になり、店のマスターに「旨い酒だネ」と話したところ、酒にまつわるいろいろなウンチク話を聞かせてもらいました。マスターは店の奥に入って行き、少し大きめのぐい飲みを手に、「この酒は最高ですヨ。まあ一杯、飲んでみなはれ！」。これが、「旨い！」。この酒が黒龍の逸品「石田屋」であることを知り、早速インターネットで調べてみると、黒龍酒造㈱には人気銘柄が数多くあり、特に「しずく」「八十八号」「火いら寿」「二左衛門」が有名で、大変入手が難しいそうです。

そこで一つ、最近出回っている旨い郷土の酒を紹介させてもらいます。私の故郷は錦帯橋で有名な岩国ですが、錦川という清流があり、かつて全国規模で実施された水質検査の結果、非常に良い水だとされ、酒も旨い。

獺祭（ダッサイ）という銘酒があります。変わった名前ですが、オッター（獺、かわうそ）が捕らえた魚を岸に並べて陽気にフェスト（祭）をしている、という意味だそうです。最近は東京の店でも置いている処が増えています。逸品と思いますので、是非ご賞味あれ！

それにしても、旨い酒は料理も美味しくしますが、後々の血糖値が心配であります。

サッカー

トリフォ　代表取締役　中西　勝也

本号が発刊される前後は、ワールド・カップ・アジア最終予選の第4・第5節が開催されている。4月時点のFIFAランキング通りなら、Bグループのトップで日本は通過できるはずだが、はたして結果はどうであろうか。

普段Jリーグなどサッカーの試合をあまり観戦しない私でも、代表戦となると生粋のサッカーファンになってしまう。

サッカーは、あまり得点できる競技ではない。普通はせいぜい2～3点というところであろう。それだけに応援するチームのシュートが決まった時は、我を忘れて立ち上がって声を出してしまう。

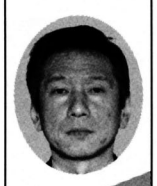
勝敗はもちろんだが、得点を取った時の興奮がファンを引きつける要因だと思う。それがワールド・カップともなれば、ナショナリズムを掻き立てられないはずはない。

最近は、欧州や南米出身のスター選手が、国際Aマッチにあまり魅力を感じなくなっているといわれているが、憧れのワールド・カップである。選手もファンも一緒になって大声を張り上げて、サッカーに興じたい。

ぜひとも、来年のドイツ大会でナショナリズムを感じさせてもらえることを心から願う。

雪国

北辰商品　専務　中村　貞利



「国境の長いトンネルを抜けると雪国だった」で始まる川端康成の名作『雪国』の舞台となった新潟県湯沢町が私の故郷です。魔の山といわれている谷川岳や三国山脈で、関東平野と遮断されていた県境の小さな村でした。

それが昭和6年に清水トンネルが開通し、東京との往来が上越線でできるようになり、湯沢町も、温泉と冬のスキーを目的に、東京からの旅行客で戦前から賑わうようになってきたようです。

川端康成も戦前、湯治を兼ねて宿泊し、執筆していたとのことです。昭和40年代、国土計画（現コクド）の堤義明氏によって三国山脈の麓が開拓されてきたのが苗場スキー場です。

さらに越後の生んだ総理大臣・田中角栄の「列島改造論」で上越新幹線ができ、また関越高速道路もでき、関東地方、特に首都圏と交通のアクセスが画期的に短縮され、観光の町として発展していきました。バブル期はリゾートマンションの建設ラッシュで、スキー場の麓の二束三文の土地が高騰したようです。

現在、故郷に帰っても子供の頃の風景は様変わりしています。変わらないのは冬の雪が地下水によって湧き出る美味しい水、それからできる魚沼産コシヒカリと地酒の美味しさです。

バイク

ひまわりCX　取締役　小野曽　暁

私は元来、人様に自慢できるような趣味を持ち合わせていない人間だと自覚しているが、そんな私にも年に一度の楽しみがある。それは「バイク」だ。ただしバイクに乗り、ツーリングに出かけるというのではなく、毎夏開催される鈴鹿8時間耐久ロードレース（8耐）を観戦するという楽しみである。周囲からは「どこが面白いんだ。」などと嘲笑されながらも、開催時期にあわせて夏休みを取り、鈴鹿まで出かけている。

バイクのレース観戦というと若者ばかりのイメージをお持ちの方が多いと思われるが、意外にも中高年また女性の観客も多い。数年前には、観客席で隣り合わせた私より年配と思しき女性の方とレース談義をしていると、周囲の若者たちも巻き込み大いに盛り上がったことがあった。世界のトップライダーのドライビングテクニックに酔いしれながら、様々な世代の人たちとレース観戦を楽しむ時間は私にとって至福の時でもある。

レース観戦後は、昔バイクに乗っていたころの熱い気持ちが蘇ってくる。最近では退職後の楽しみとしてバイクを購入し、カッコいいバイク親父になることを密かに計画している。その前に今年も鈴鹿に行かなければ……。

礼文島の春

東京コムウェル　監査役　宇賀神　治夫

「最北限の花の浮島、礼文島へどうぞ」という観光宣伝に惹かれて、ゴールデンウィークの週末に礼文島へ足を運んだ。この島は、本州では2、000メートル級の高山でしか花の咲かない植物が海岸線から花を咲かせており、海の上の高山植物園といわれている。

フェリーで香深港に着いてみると今年は春の訪れが半月遅いとかで、礼文の桜は未だ綻びさえもみせておらず、日中の気温が3度、風速9メートルと東京の真冬並みの気候である。しかし、最北限の湖、久種湖周辺に宿を取って、翌朝湖畔を散策してみると、人っ子一人いない静寂な湿原に、ミズバショウが見渡す限り雪白の花を咲かせており、しばし寒さも忘れて壮麗な気分に浸ることができた。

また丘陵地帯では、草原のあちこちにエゾエンゴサクが寒風に耐えて地を這うように青紫の可憐な花を咲かせており、委託手数料の完全自由化や商取法改正という厳しい環境に耐えて懸命に生き抜いている当業界の姿を思い合わせて少なからぬ感慨を覚えた。

礼文島は6月に入れば数々の高山植物が一斉に開花するという。当業界共々、一日も早い花の季節の到来を祈念して島を後にした。

事務局だより

この業界に入った時、ある先輩が、「この業界は夢のある業界だ」と仰っていました。時はバブル経済の真っ只中でした。

その後、バブルは崩壊し、その先輩の「予言」ははずれたかに見えました。しかし、そうではありませんでした。バブル崩壊を機に日本経済は構造改革の時代に入り、政府は市場メカニズムの活用を唱え始めました。「産業インフラ」としての商品先物市場が本当に必要とされる時代になったのです。

今、商品取引員の経営環境には厳しいものがあります。でもそういう時だからこそ、この業界には「夢」があることを忘れないでいたいものです。

光陽など準決勝に

商品取引員親睦野球大会

第14回商品取引員親睦野球大会の3回戦（東京・江東区夢の島総合運動場軟式野球場）までの結果は次の通り。

▼光陽グループ8―2明治物産

▼ひまわりCX11―3ハーベストフューチャーズ

▼北辰物産4―1サンワード貿易

▼小林洋行10―3豊商事

決勝戦と3位決定戦は6月14日に千葉・幕張の千葉マリンスタジアムで。